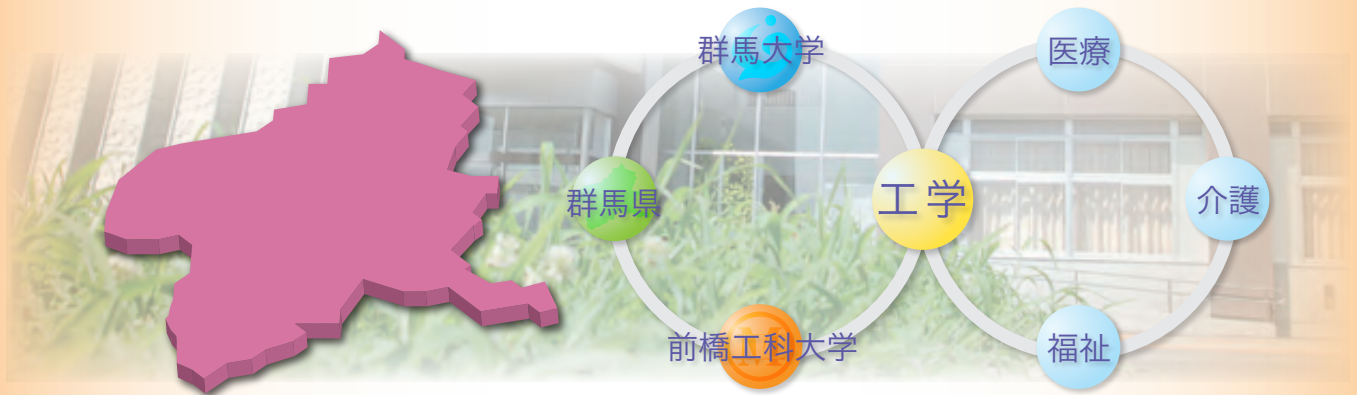


## 平成22年度 第二回 医工連携研究会

# 医療・介護・福祉機器等の開発とその実用化



日 時 平成22年12月2日(木) 13:00～17:05

開催場所 前橋テルサ 8階 けやきの間

前橋市千代田町2-5-1 TEL:027-231-3211

対 象 県民、医療・介護・福祉に関連する企業及び団体等関係者

参加費 講演会 無 料

交流会 1000 円

### プログラム

司 会	群馬大学 共同研究イノベーションセンター	伊藤 正実 教授
13:00～13:05	開催挨拶 群馬大学 研究・国際交流担当	和泉 孝志 理事
13:05～13:50	基調講演 経済産業省 商務情報政策局 医療・福祉機器産業室	竹上 嗣郎 室長
	医療・介護・福祉機器、それぞれの産業を活性化させて いくための政策について キーワードは医工連携(仮題)	
14:00～14:40	講演Ⅰ 群馬大学 医学部 保健学科	内田 陽子 准教授
	認知症ケアの質改善のためのソフト開発 - 認知症ケアのアウトカム評価とアクションプランの開発 -	
14:45～15:25	講演Ⅱ 有限会社アプリ	田代 哲 代表取締役
	開発型ベンチャーから見た医療・福祉分野について	
15:30～16:10	講演Ⅲ 群馬大学 医学部 保健学科	亀ヶ谷 忠彦 助教
	高齢者・障害者が車いすで快適に過ごすための支援 - 福祉機器の使用現場からの提言 -	
16:15～16:55	講演Ⅳ 前橋工科大学 工学部 システム生体工学科	王 鋒 准教授
	インテリジェントシートで幼い命を守る - 非接触型呼吸・心拍モニタリングセンサーの研究開発 -	
17:00～17:05	閉会挨拶 前橋工科大学	江守 克彦 学長
17:10～18:00	交流会 名刺・情報交換等	

申込方法 開催日までに、裏面のFAX参加申込書にてご連絡ください。

住所 〒371-8511 前橋市昭和町三丁目 39-22 群馬大学共同研究イノベーションセンター昭和分室『医工連携係』  
TEL:027-220-8115, FAX:027-220-8116 担当:石田 悦子、塚田 光芳  
E-mail: eishida@jimu.gunma-u.ac.jp

後援: 群馬県商工会議所連合会、群馬県商工会連合会、前橋商工会議所

# 第二回 医工連携研究会 要旨

基調講演 医療、介護、福祉機器、それぞれの産業を活性化させていくための政策について キーワードは医工連携（仮題）【13:05～13:50】

経済産業省 商務情報政策局 医療・福祉機器産業室 竹上 嗣郎 室長

【要旨】 少子高齢化の加速、情報化社会の急進展、経済社会構造のグローバルな変化は、国民生活の基盤を揺るがす大きなうねりとなって押し寄せています。政府が策定した新成長戦略においては、医療、介護、健康関連産業に対し、日本の成長牽引産業、成長のエンジンとして大きな期待がかけられています。そのような中であって、医療、介護、福祉の分野については、これまでビジネスのターゲットとして捉えてこなかった産業界からの参入も加速しています。「規制産業だから」、「リスクがあるから」、「現場ニーズがわかりづらいから」と敬遠理由を挙げられがちな医療等関連産業ですが、果たしてそうでしょうか。日本の得意分野を活かして、医工連携によるこれらの成長を実現するための政策とともに、今後の方向性についてもお話しします。

講演Ⅰ 認知症ケアの質改善のためのソフト開発 【14:00～14:40】  
- 認知症ケアのアウトカム評価とアクションプランの開発 -

群馬大学 医学部 保健学科 内田 陽子 准教授

【要旨】 わが国は超高齢社会を迎え、認知症高齢者も増加しています。長い間、認知症は治療の見込みがなく問題行動を抑え込むケアが行われていましたが、現在ではケアの工夫で状態が改善できる報告があります。そこで、今回、認知症ケアの質の向上のために、認知症ケアのアウトカム評価票を開発し、ケアの質改善に役立つシステムをここに紹介したいと思います。

講演Ⅱ 開発型ベンチャーから見た医療・福祉分野について【14:45～15:25】

有限会社アプリ 田代 哲 代表取締役

【要旨】 当社は、開発型ベンチャーとして、病理機器・産業機器・楽器の開発・商品化を手がけています。新しい発想を大切に、薬事法の許可や特許の取得などにも取り組み、世界トップシェアを占める病理機器から国産初となるイングリッシュハンドベルまで技術力を活かした開発を行っています。開発型ベンチャーとしてチャレンジを続ける取組をご紹介します。

講演Ⅲ 高齢者・障害者が車いすで快適に過ごすための支援 【15:30～16:10】  
- 福祉機器の使用現場からの提言 -

群馬大学 医学部 保健学科 亀ヶ谷 忠彦 助教

【要旨】 車いすは医療・介護・福祉施設で広く用いられる身近な福祉機器です。今日様々な車いすが開発、使用されていますが、車いすをはじめ種々の福祉機器が使用現場で機能を発揮するためには、ハード面として「優れた機器の開発」、ソフト面として「機器の適正かつ効果的な使用」の2点が重要になります。多くの現場で車いすの導入、適合に関わった経験から、福祉機器を使用者の快適な生活に結びつけるための支援について意見を述べます。

講演Ⅳ インテリジェントシートで幼い命を守る 【16:15～16:55】  
- 非接触型呼吸・心拍モニタリングセンサーの研究開発 -

前橋工科大学 工学部 システム生体工学科 王 鋒 准教授

【要旨】 未熟児は、生命機能の発達が未完成のため、生後新生児集中治療センターでモニタリングと治療を受けます。しかしながら、現在のモニタリング方法は、患児の体に大きな負荷を与えます。このような問題を解決するため、我々は高分子圧電ポリマー PVDF を利用して、患児の体に負荷を与えない非接触型の呼吸・心拍モニタリングセンサーを開発しました。本講演は、このセンサーの原理および実験の結果を紹介します。

各 位

群馬大学  
前橋工科大学  
群馬県(産業政策課)平成22年度  
第二回 医工連携研究会  
医療・介護・福祉機器等の開発とその実用化(ご案内)

時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

政府は、今年6月に新成長戦略を閣議決定しました。この戦略は、“医療・介護・健康関連産業を日本の成長牽引産業”として明確に位置付けるとともに、利用者本位の多様なサービスが提供できる体制を構築すると明言しています。これを実現するためには、産学官の一体となった取組と、“ものづくり技術”及び“先端医療技術”を活用した革新的な医療・介護関連技術の研究開発を推進しなければなりません。

特に、医療・介護・福祉は地域密着型のサービス産業であり、群馬県のものづくり技術と大学の先端医療技術を組み合わせた新しい医療機器等の開発は、群馬県の異分野技術の融合と、地域内企業が新たな事業領域に進出するための基盤となり、それが安心・安全な地域医療の充実を誘導することになります。

群馬大学、前橋工科大学及び群馬県は、到来しつつある高齢社会を見定め、地域の医療・介護・福祉関連産業のイノベーションを目的に医工連携研究会を開催致します。研究会では、関係者による議論を重ね、安心・安全な地域医療を実現するための課題等について討議を行います。それらにつきましては、講演者の講演テーマに反映し、また意見交換の場を設けさせて頂く予定であります。

皆様方との議論を通じ、産学官の新たな連携に向けた出会いの場としてこの研究会をご活用頂けることを期待しております。

皆様お誘い合わせの上、ぜひご参加頂きますようご案内申し上げます。

- 開催日時 平成22年12月2日(木)13時～17時05分
- 開催場所 前橋テルサ 8階 けやきの間  
前橋市千代田町2-5-1 電話 027-231-3211
- 対 象 県民、医療・介護・福祉に関連する企業及び団体等関係者
- お問合せ先 住所 〒371-8511 前橋市昭和町三丁目39-22  
群馬大学共同研究イノベーションセンター昭和分室『医工連携係』 担当:石田 悦子、塚田 光芳  
TEL:027-220-8115、FAX:027-220-8116 E-mail:eishida@jimugunma-u.ac.jp

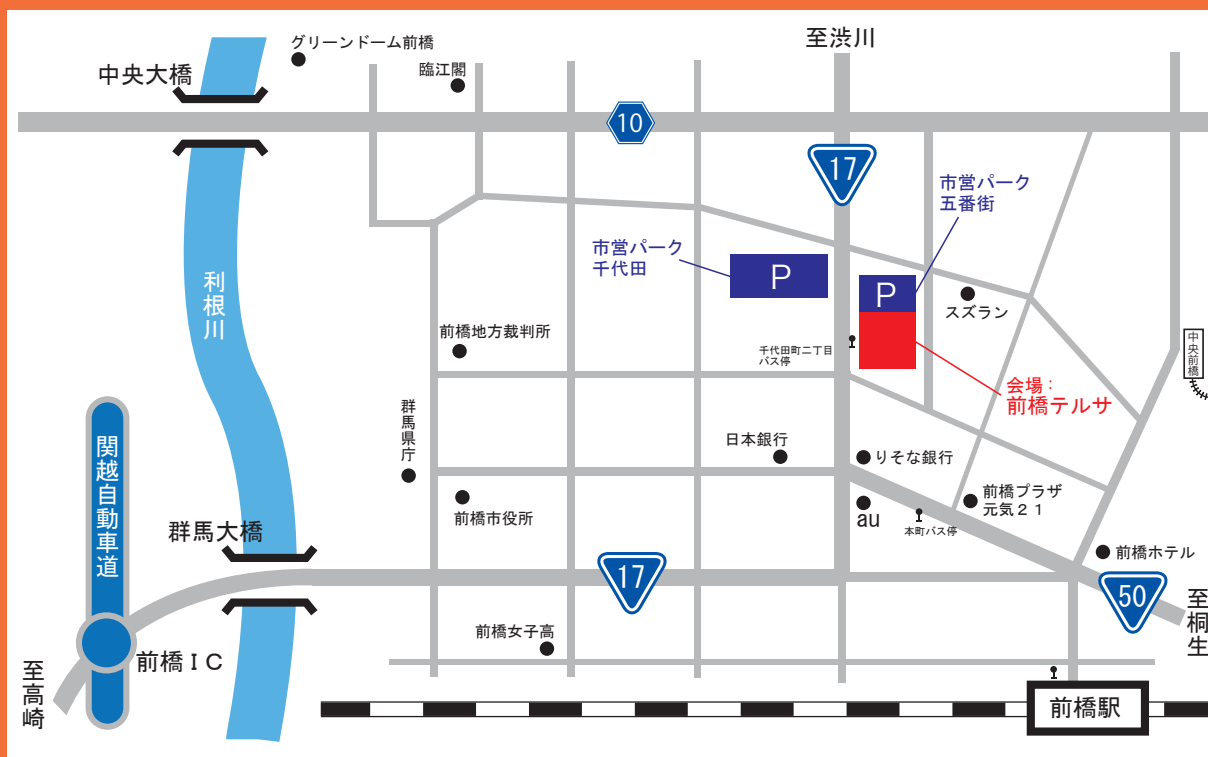
-----キリトリ線-----

## FAX参加申込書 (027-220-8116)

企業名・団体名等			
住所 〒 -		TEL	
		FAX	
所属・部署名・役職	氏名	メールアドレス	交流会参加希望(○)
		@	
		@	

※ 交流会に参加いただける方は、希望欄に ○ を付け、会費1,000円を当日会場でお支払いください。

# 会場案内図



※ 駐車場は市営パーク千代田、市営パーク5番街をご利用ください。